

# 令和7年度 学 校 評 価 報 告

草加市立青柳中学校

(令和8年1月21日作成)

1 学校教育目標	3 前年度の成果と課題
自ら考え実践する生徒（知） 心豊かで思いやりのある生徒（特） 健康でたくましい生徒（体）	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
○自ら考え実践する生徒を育成する授業改善 ○心豊かで思いやりのある生徒を育成する活動の充実 ○健康でたくましい生徒を育成する生徒指導の推進 ○幼保小中を一貫した教育の研究と実践 ○地域とともにある学校づくり	成果 ○校則について学校の実情に合わせて見直しが進んだ。 ○除草作業や保護者が参加する講座、学校運営協議会などを通じて、地域や保護者に開かれた学校作りを維持することができた。 ○学校教育目標を踏まえて学年目標・学級目標を設定し、知・徳・体の全てにおいて目標を設定することで、生きる力を養おうとする具体的な指針をもつことができた。 ○主体的、対話的で深い学びの視点に立った授業を目指し、ICTの活用など充実した授業を行うことができた。 ○道徳の校内研修、研究授業を通して授業に対する見識が深まった。 ○ピアサポート活動をはじめ積極的にいじめ撲滅に向けて、生徒が主体となって取り組んでいた。 課題 ●不登校生徒の数を1人でも減らすことを多角的・多面的に考えなければいけない。登校できる生徒について相談室の利用もする中で学習や行事に参加することに意義を見出し、将来自己実現できるように学校全体で取り組む必要がある。 ●生徒指導場面における指導の基準について見直しされるが、職員間の認識のずれを埋められるようにできるだけ年度の早い段階で、職員全体で共有し、生徒全体にも徹底する。 ●来年度の委嘱発表に向け、研究組織の構築、学校全体、学年・各教科で実施する取り組みを当日に向けて計画的に進める。 ●継続的に家庭学習を行う努力をしたり、自分が学んだ成果を発揮する機会があったり、達成感を味わう経験ができる取り組みを設定する。 A I ドリルなどを活用し、授業内での学習、家庭での課題を提出させて確認するなどの学校で学習→家庭で復習・予習→学校で確認・復習…といったサイクルを作る必要がある。

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校経営目標、方針</li> <li>校務分掌組織</li> <li>適所への適材配置</li> <li>職員会議等の運営</li> <li>予算の執行・決算、監査等</li> </ul>	B	<p>○各組織が担当の先生達が協力しスムーズに運営されていた。</p> <p>○それぞれの分掌に適した人が配置されていた。</p> <p>●教員間で仕事量や分掌に偏りが生じている。</p>
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究組織、計画、実施</li> <li>校内研修の推進</li> <li>授業改善への取組</li> <li>校外研修会への参加</li> <li>人材育成</li> </ul>	A	<p>○2年間の道徳委嘱研究により、学年の道徳における職員の指導力が大変身についた。道徳推進教師・研究推進委員がよく動いていた。</p> <p>○研究発表では研究推進委員会、授業研究部、環境・資料調査部がそれぞれの役割を発表当日に向けて果たし、充実した内容の発表につながった。</p> <p>○段階や状況に応じた校内研修が開かれており、当事者意識を持って臨めた。</p> <p>●委嘱研究で、3学年共通の取組方・考え方の足並みを調整する。</p> <p>●研究発表に向けて研修部会の内容、これからの方向性や、どのような研究をしているか。「道徳」の授業そのものについてさらに内容の深い研修が必要である。また、長期的に少なくとも三年計画で研究を進めていく必要がある。</p> <p>●「草加っ子の学びを支える5か条の」定着が課題となっている。特に、毎時の「課題設定」と「振り返り」をさせることの重要性を共通認識で実施する必要がある。</p>
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健計画、安全計画</li> <li>環境衛生の管理</li> <li>健康観察、安全点検</li> <li>緊急事態発生時の対応</li> <li>危機管理マニュアルの作成・活用</li> </ul>	A	<p>○全職員で対応ができ、健康観察の様式変更で、効率化が図れた。例年通り問題なくできていた。</p> <p>○養護が体調不良者の早退時に、家庭へ連絡を入れて頂き、放課後カードをくれて確認できている。</p> <p>●健康観察の早めの入力を徹底。タブレットを毎朝教室に持っていくことに慣れる。欠席者がいた場合に、1校時前に家庭連絡をする。</p>
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人情報の管理、保護</li> <li>施設設備の管理と有効利用</li> </ul>	B	<p>○情報管理については、適切に行われた。</p> <p>●今後も複数回のチェック、管理職を通すなどに努める。情報の取り扱いを職員一人一人が十分に自覚し、漏洩しないように複数で確認しあうことが大切である。</p> <p>●鍵の紛失については今後も自宅に持ち帰らない等、在処を明らかにしておく。</p> <p>●施錠の徹底を全職員が意識する。また、時間がずれている時計や鍵の不具合は早急に直す。</p>
	⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校情報の発信</li> <li>学校公開の実施</li> <li>学校運営協議会の推進</li> <li>地域、校種間連携</li> <li>PTA活動の活性化</li> </ul>	B	<p>○11月の学校公開日は例年より来校者が多かった。すぐーやHPで学校情報を発信していることも影響した。9月の引き取り訓練も来ていただいた保護者の方がいた。</p> <p>○行事等保護者、地域への連絡が教頭先生からできていた。</p> <p>●個人情報や肖像権保護をしながら、さらに積極的な情報発信をしていく必要がある。(例えば日常行われている教育活動についてなど)</p> <p>●学校公開日で1～5時間目まですべての授業を公開することが少し負担に感じた職員もいた。</p>
	⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>目指す子ども像の共有</li> <li>15年間を通じたカリキュラムの編成</li> <li>一貫教育推進のための組織づくり</li> </ul>	B	<p>○川柳小、八幡北小の先生方と確認を取りながら研究発表や行事を実施できた。連携に関しては小中で都合がつかないこともあるので、可能な限り今実施している取組を広げていきたい。</p> <p>●研究発表では、小学校でやったことが分からなかった部分もある。小中で意見の交換できる機会が増えるとよい。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>1.5年間を通じたカリキュラムの編成、実施</li> <li>教育計画の作成</li> <li>教育活動の評価</li> <li>目標、方針の周知</li> <li>授業時数の配当、確保</li> </ul>	B	<p>○1年間を通して学校で意識して授業数確保ができた。</p> <p>○授業時数について、教務主任を中心に調整できた。</p> <p>●曜日や時間によって、授業時間の差が出てしまった。個人的に授業をもらったりした。</p> <p>●45分の短縮授業や授業カットについては学校全体で教科や領域の残りの時数と必要な時数を確認しながら、検討していく必要がある。</p>
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善</li> <li>評価、評定の工夫</li> <li>外部人材の活用</li> </ul>	B	<p>○協力して評価をつけたり、授業進度の調整をすることができた。教科担当どうして話し合い、よくできていた。</p> <p>○農園の方にインタビューをしたり、外部の方にご協力いただく場面もあった。</p> <p>○主体的、対話的で深い学びを実現するためにも「草加っ子の学びを支える5か条の」実施は必要である。技能教科などでは外部人材を活用してもよい。</p> <p>●埼玉県学力学習状況調査などで思うような成果が挙げられていないのが現状であり、今後も授業の質向上には力を入れていく。</p> <p>●家庭学習の定着ができない。</p>
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体計画の作成</li> <li>各教科との関連</li> <li>道徳的実践力の育成</li> <li>家庭、地域社会との連携</li> <li>いのちの教育の推進</li> </ul>	A	<p>○研究発表もあり、外部指導の先生を招いて研修したり、授業を参観したりと有意義であった。学年職員それぞれ、授業力・指導力が上がった。</p> <p>○研究発表に向けて、研究授業が年に数回実施できた。研究発表を本校の道徳の授業スタイルが各学年浸透してきた。学校として様々なやり方があると共有できたので、今後もこれを切らさず、来年度もさらに進化させていく。</p> <p>○研究発表プラス普通の授業も大切に学校全体で行っている。</p>
	④特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>学級活動、学級経営</li> <li>学校行事</li> <li>生徒会活動</li> </ul>	B	<p>○各学年とも学校行事に取り組む姿勢がとても良かった。個性を活かし一人一人に活躍する場を与え得よう意識できた。行事も例年通り問題なく取り組み、学級経営に生かすことができていた。</p> <p>○担当を中心に滞りなく、進められた。青柳中学校独自の活動を生徒会中心で行った。</p> <p>●授業時数確保との関係から学校行事の精選や見直しが必要である。教育的効果を考え、精選も必要である。</p> <p>●行事によって担当が重ならないよう、学年職員全員が意欲的に仕事できるような体制づくりを調整する。</p>
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>指導内容の充実</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>評価の工夫</li> <li>地域の人材・物的資源の活用</li> </ul>	B	<p>○多種多様な活動を、学年で仕掛けて実践できている。ふるさと草加学習など地域や郷土への理解を深めることができた。</p> <p>○学年と相談しながら、計画通りに実施し、学級経営に生かすことができた。</p> <p>●年間指導計画との整合性や「ふるさと草加」の実施内容について検討が必要になる。</p> <p>●学校行事の準備に関わる部分もあり、本来の総合的な学習の時間の目的も意識する必要がある。</p>

⑥生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織的な生徒指導</li> <li>・問題行動への対処</li> <li>・教育相談、生徒理解</li> <li>・いじめ防止対策</li> <li>・保護者、地域、諸機関との連携</li> </ul>	A	<p>○生徒指導主任を中心に学校全体で生徒指導を行っていた。部会や関係機関との連携等協力していた。</p> <p>○不登校や非行傾向の生徒等様々あるが、情報共有を適切に行い全員で対応することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の共有を速やかに行い、全員で対応することができた。</li> <li>●SSWさんが長らく決まらなかった時期があった。</li> <li>●不登校生徒の登校回数を増やすことができなかった。</li> </ul>
⑦キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織的なキャリア教育</li> <li>・指導方法の工夫と改善</li> <li>・啓発的経験の充実</li> <li>・進路情報の収集・活用</li> <li>・職場体験活動</li> </ul>	A	<p>○担当を中心に充実した内容を実施できた。</p> <p>○上級学校調べを知識だけでなく、意欲的・主体的な進路選択につながるように展開する。</p> <p>○進路指導について学年全体で共有しながら、進めることができていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●二学期の総合が行事などで計画が変更することがあった。</li> <li>●3年間を見通した進路指導を行う。</li> </ul>
⑧特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画、支援計画</li> <li>・指導方法の工夫と改善</li> <li>・通常学級との交流</li> <li>・諸機関との連携</li> <li>・校内支援体制の整備</li> </ul>	B	<p>○通常級と連携を取り、子どもたちの支援にあたることができた。</p> <p>○学校行事を通して、交流することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●交流で通常学級に顔を出し、行事で一緒に参加しやすいよう体制を整える。また普段の教育課程のなかで、それを意識する。</li> </ul>
⑨学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画、支援計画の作成</li> <li>・図書館補助員の活用</li> <li>・諸機関との連携</li> <li>・図書館の整備</li> <li>・図書館利用の工夫</li> </ul>	B	<p>○学校司書の伊達さんや担当を中心に滞りなく進められた。</p> <p>○図書委員を中心に図書室を充実させ、例年通りできていた。</p>
⑩情報教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育計画の作成</li> <li>・校内研修の充実</li> <li>・ICT機器の積極的な活用</li> <li>・情報モラル教育の推進</li> </ul>	B	<p>○担当の先生や詳しい先生方から、情報発信して、授業や活動に生かせるようにつなげた。</p> <p>○採点時間が大幅に短縮し、研修の回数も十分あった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●持ち帰りの結果、充電忘れ、故障が非常に多かった。</li> <li>●タブレットの破損が多く、対応が困難であった。</li> </ul>
⑪人権教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体計画の策定</li> <li>・各教科との関連</li> <li>・人権感覚の育成</li> <li>・校内研修の充実</li> </ul>	A	<p>○人権研修のなかで「めぐみ」を視聴し、人権に関しての認識を再確認ができた。</p>

(様式2・中学校用③)

草加市立青柳中学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校	学力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習の習慣化</li> <li>・家庭学習ノートの活用</li> <li>・授業規律の徹底</li> <li>・思考力、判断力、表現力を育成する言語活動の充実</li> <li>・一人一回の研究授業の実施</li> <li>・1時間毎の授業改善</li> </ul>	B	<p>○授業の場面でタブレットやデジタル教材を活用する場面が増えた。</p> <p>○夏の研修で学校としての学力調査の結果の共有・分析・改善策の決定等が職員が一体となって実施できたので、今後も継続していく。</p> <p>○各教科ミライシードの活用を取り入れていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ミライシードの効果について検証する。</li> <li>●テスト前以外の期間に家庭学習を徹底させる。</li> <li>●学力向上に向けて、家庭学習の時間を確保し、習慣化する。学校全体で学力向上への取り組みができるとよい。</li> </ul>

づくり	生徒による自治的活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会活動の活性化</li> <li>・活発な部活動</li> <li>・道徳教育の推進</li> <li>・いじめ撲滅への取組</li> <li>・居場所作りの支援</li> <li>・研修体制の確立</li> </ul>	B	<p>○生徒会、ピアサポーターの活動ができていた。</p> <p>○生徒会や専門委員会がよく活動していた。良いリーダーとフォロワーを育てていく。</p> <p>●ピアサポート活動は負担が多く、継続できるか検討する。効果についても検証する。</p> <p>●1時間のみのお教室や△△学習、GTECなどに、学年の時間が減らされたので、今後も授業計画を検討する必要がある。</p> <p>●部活動について、しっかりと顧問が見届け、活動を充実させる。安全面にも配慮する。</p>
-----	------------	--	---	---

### 5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

○生徒のアンケートから、特に「あいさつや返事」「授業が分かりやすい」「授業に積極的に取り組む」「学校が楽しい」でよく当てはまるの割合が昨年度より上昇した。職員が率先垂範で生徒に示していることが成果として表れてきている。

○新パソコンの導入で、朝の健康観察やすぐるを活用した情報発信・共有が促進できた。

○学校公開や引き取り訓練、合唱コンクール等保護者に来場していただく機会を多く設定できた。

○AIドリル「ミライシード」の導入により、5教科では課題の作成・チェックなどが自動化され、先生方の時間の確保につながった。

○様々なニーズに応じた校内研修が実施できた。夏の職員研修を実施し、埼玉県学力学習状況の結果を職員全員で見て分析する、道徳委嘱研究や人権、生徒指導等の研修ができたので充実した時間を過ごせた。

○研究委嘱を通して、道徳における職員の指導力がついた。道徳推進教師・研究推進委員を中心に組織的に活動できた。研究発表では研究推進委員会、授業研究部、環境・資料調査部がそれぞれの役割を発表当日に向けて果たし、充実した内容の発表につながった。

### 6 次年度の改善策

●日報を効果的に活用する。朝の職員の打ち合わせの場面で朝の時間を短くし朝の時間の確保を行う。また、放課後、部活動以外で行う生徒の活動(各教科の補修、委員会等)について、全職員に周知すべきだと思います。

●ピアサポート活動や集会については検討する。残すにしても規模を縮小し、相談会のみなど必要かどうか精選する。

●時程の種類を精選し、生徒の生活の安定につなげる。

●部活動壮行会、表彰集会のあり方を検討する。

●教員の勤務時間外に生徒の活動があるという現状を変えるために、下校時刻の見直しが必要である。

●清掃の時間のカットが多いので、最低でも週2回は入れる。

●成績処理期間の短縮授業は時間のゆとりを作る。

●保護者会や外部の方をお招きして体育館を使用する際、全職員の共通理解のもと、きれいな状態を保つ。傘立てを常設したり、靴箱の整頓を常日頃からやっておくべきである。同様に、空き教室(学習室①、②など)もしっかり整備しておき、いつでもだれでも使用できるようにしておく必要がある。

●学力向上に向けて、家庭学習の取りませ方、各教科の授業での意識することなどを職員全体で確認・共有し、生徒の学力を向上させる具体的な取組を考え、実施していく。